

最終回 上杉の城下町”米沢“誕生

上杉景勝

(全3回)

文=今福 匡 さん
神奈川県出身。歴史ライター。米沢温故会・米澤直江會会員。主な著書『「東国の雄」上杉景勝』『図説上杉謙信』『前田慶次 武家文人の謎と生涯』など。



息子の教育

関ヶ原敗戦後、上杉景勝は幕府が置かれた江戸に参勤し、大坂の陣、最上家改易による諸城接収などの軍役をつとめました。その間、景勝に嫡男が誕生。2代藩主となる喜平次定勝です。

景勝は正室菊姫(武田信玄の娘)との間には子がありませんでした。子どもは、四辻大納言の娘との間にもうけた定勝ただ一人でした。しかも、四辻氏は産後すぐに亡くなります。二人の妻は先立たれた景勝でしたが、嫡男誕生の知らせには「50歳になって」と笑ったと伝えられています。

定勝は幕府への証人として江戸桜田邸で暮らすことになり、直江兼統正室おせんの手で育てられます。景勝から息子へ宛てた手紙が残っています。ある手紙では字が上達したことをほめて「手本を送ってやろう」と書いています。景勝は少年時代、叔

父の謙信から手本を書いてもらっています。息子に手本を書いてやりながら、謙信のことを思い出していたかもしれません。

米沢・大改造

米沢城は堀一重をめぐらせた小規模なものでした。関ヶ原敗戦による滅封処分が下されても譜代の家臣を召し放たなかったため、彼らとその家族の居住空間を確保すべく、城下町の拡張が急がれました。景勝は、直江兼統に命じて城下の整備に着手します。郊外にも下級武士たちを住ませ、街道沿いに配置された彼ら(原方衆)には、領国の四方を守る役割も課せられました。

米沢藩は全国有数の貧乏藩だったと言われます。藩財政が厳しかったのは事実ですが、江戸後期になると「富強」の藩という評判が広まっていきます。その下地は景勝時代に推進された治水事業・新田開

発に端を発していると言っているでしょう。

市内の小中学校には、謙信と上杉鷹山の肖像画が掲げられています。名君・鷹山は説明するまでもないですが、「なぜ生前米沢に足を踏み入れたことがない謙信が？」と思われる方も多いでしょう。

景勝は越後春日山に葬った謙信の遺骸を、会津、米沢と転封のたびに移転させてきました。そして、本丸に御堂を築き、謙信の遺骸を納めた甕を安置したのです。おそらく城に入る人々は、御堂に向かって遙拝したと思われます。こうして家中に謙信への畏敬の念を根付かせていったのです。米沢藩の「精神的支柱」は景勝によって生み出されました。郷土愛の醸成として学校に謙信の肖像画を掲げる行為は、ひよっとしたら400年以上前に御堂を建立した景勝の「仕掛け」に現代の我々もはまっています。

葬儀は質素に

元和8年(1622)冬、幕府の許可を得て景勝は帰国します。翌年、江戸に残した息子定勝への家督相続が幕府に認められました。それを見届けて安心したのか、元和9年(1623)3月、景勝は米沢城内でその生涯を閉じました。69歳でした。生前、自分の葬儀は質素にせよと遺言しています。現在の上杉家廟所に葬られた最初の殿様でもありました。今年景勝没後400年の節目に当たります。

※尊号は略して記載しています。



「上杉景勝像」
(米沢市上杉博物館所蔵)

よねざわ
景勝めぐり



上杉景勝の墓所
場所/米沢藩主上杉家廟所
(9時~17時、拝観料あり)

問合せ/秘書広報課(22) 5111

◆ご愛読いただきありがとうございます。
次号の裏表紙は米沢にいい人いい仕事です。